

に生育中には伸長するつるの各節から発根するのでそれも丁寧に扱い、株全体の勢いを維持することが大切である。通常、カボチャはあまり肥料をやらないが、株を育てるためには定期的に追肥が必要である。

今回 20 節前後で交配・着果させたが、まだその



写真 1. 大きさを表示したカボチャ

時点では茎葉が十分育っていなかったため、もう少し着果節位を上げた方がよいようである。

サマーフェアの期間が巨大カボチャにとってはやや早い設定なので、今後はミニカボチャなど特徴ある品種も積極的に活用して、更に入園者に楽しんでもらうつもりである。



写真 2. 試食中のアフリカゾウ

新たに導入した植物（ヒビスクス属）の栽培と展示

濱谷修一

ヒビスクス属 (*Hibiscus*) は世界各地の熱帯、亜熱帯を中心に、一部温帯に約 250 種が分布する。一部の種は園芸的に普及し、盛んに品種改良が行われているが、その他の多くの種は図鑑等には紹介されているものの広く栽培されるには至っていないようである。そこで、種子交換等によりヒビスクス属の植物を導入・栽培し、特に観賞面についての魅力について改めて観察を行った。

ヒビスクス・アケトセラ (*H. acetosella*)

(写真 1、2)

アフリカのアンゴラ地方原産。植物体全体が赤く、観葉植物としての利用の可能性がある。また、花色は濃いワインレッドで、好き嫌いがあるとは思いますが非常に印象的。花の直径は約 12cm。開花期は 11 月～4 月頃となり、花を楽しむためには冬季温室内で栽培する必要がある。草丈は 2 m を越える一方で、茎はそれを支える強度がないため、支えをしてやる必要がある。

平成 19 年度は、夏咲きのつる植物と組み合わせ

て熱帯スイレン温室の壁面に茂らせ、冬の間の彩りとして利用した。盛んに分枝し、赤い葉が壁面を覆ってくれた一方で、距離が離れると花が目立たなくなるように感じられた。また、午後 2 時過ぎには花がしばみ始めるのも残念だった。

ヒビスクス・ラバテロイデス (*H. lavateroides*)

(写真 3)

メキシコ、グアテマラ、ベリーズの国境付近原産。11 月下旬に草丈 50 cm 程度で開花。やや筒状で幅 3.5cm、長さ 4 cm 程度の花を咲かせた。開花した花は桃色だった。ほど良い大きさでかわいらしい印象を受けた。開花中は大温室内に展示した。その後草丈は 1 m 程度まで伸びた。

全体に細く、節間が開いて間延びした印象を受けたので、強光下で栽培するなどしてもう少しがっちり育てることができれば、鉢花として有望である。冬咲きなので花を楽しむためには冬季加温が必要だが、アケトセラほど大きくならないため、家庭でも十分楽しめると思われる。春ごろには茎の先端から枯れこんでくるため（株全体は枯れないが）、種子からの繁殖が有効と思われる。

ヒビスクス・ラディアツス (*H. radiatus*)

(写真4)

熱帯アジア原産。最初の開花は10月下旬、草丈が1m80cmのときだったが、翌夏過ぎまで次々と開花したので、ある程度株が大きくなると不定期に開花する性質を持つと思われる。花色はうす桃色で花弁基部がえんじ色。育てやすく、次々と開花するため大きく育てられる場所では展示効果が高い。

その一方で、とげがあって扱いにくい、結実の際にはがくが枯れるので観賞上好ましくない(終わった花をがく、子房ごとこまめに除去する必要がある)、ある程度伸びた枝は枯れこんでくるため、定期的に剪定が必要である、などの欠点も認められた。

挿し木による活着率は低かったので、種子からの繁殖が推奨される。

上記3種は、いずれもS.O.S. 子供村植物園(フランス)から2006年4月15日に種子を導入し、同年5月29日には種した。

また、上記3種のほか、ヒビスクス・コッキネウ

ス(*H. coccineus*)、ヒビスクス・サブダリファ(*H. subdariffa*)などが開花した。

コッキネウスはモミジアオイとして知られ園芸的に普及しつつある。夏に巨大輪を咲かせるため非常に魅力的だが、導入した個体は結局数輪しか咲かせなかった(何日かおきに一度に1輪ずつ数回)、これでは展示に使うのは難しい。なお、「花の進化園(屋外)」でもモミジアオイ(種苗会社から購入した別系統)を植栽しているが、毎年よく開花している。公開エリアに植栽する際は、花つきの良い品種を選ぶ必要がある。

サブダリファはハイビスカスティーの原料となるローゼルとして知られている。最近「フルーツハイビスカス」として通販などで種子や苗が流通している。花の観賞価値は低いが、ハイビスカスティーの解説を添えて実付きの株を展示すると注目度が高かった。うまく栽培すると円錐形の美しい樹形を作るが、育苗の際の肥培管理に失敗すると下葉が落ち、貧弱な姿になるので、注意が必要である。



写真1. ヒビスクス・アケトセラ



写真2. 平成19年度におけるヒビスクス・アケトセラの植栽の様子



写真3. ヒビスクス・ラパテロイデス



写真4. ヒビスクス・ラディアツス